



安全データシート (SDS)

1. 製品及び会社情報

昭和化学株式会社
東京都中央区日本橋本町4-3-8

担当

TEL(03)3270-2701

FAX(03)3270-2720

緊急連絡 同上

改訂 平成29年05月15日

SDS整理番号 04015230

製品等のコード : 0401-5230

製品等の名称 : 1,1-ジメチルヒドラジン

推奨用途 : 試薬

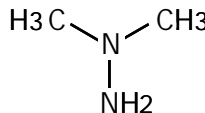
参考: その他の用途(当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。)
農薬、医薬品等の合成原料、宇宙産業やミサイル等の液体噴射推進薬、
合成繊維・合成樹脂の安定剤、界面活性剤 など



2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性 引火性液体	:	区分2
爆発物	:	区分外
自己反応性化学品	:	区分外
自然発火性液体	:	区分外
健康に対する有害性	:	
急性毒性(経口)	:	区分3
急性毒性(経皮)	:	区分4
急性毒性(吸入:蒸気)	:	区分2
皮膚腐食性・刺激性	:	区分2
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	:	区分2A
生殖細胞変異原性	:	区分2
発がん性	:	区分2
生殖毒性	:	分類できない
特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)	:	区分1(神経系、呼吸器)
特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	:	区分1(肝臓、血液系、神経系、呼吸器系)
環境に対する有害性	:	
水生環境急性有害性	:	区分2
水生環境慢性有害性	:	区分2



注意喚起語: 危険

危険有害性情報

引火性の高い液体及び蒸気
飲み込むと有毒(経口)
皮膚に接触すると有害(経皮)
吸入すると生命に危険(蒸気)
皮膚刺激
強い眼刺激
遺伝性疾患のおそれの疑い
発がんのおそれの疑い
神経系、呼吸器の障害
長期又は反復ばく露による肝臓、血液系、神経系、呼吸器系の障害
水生生物に毒性
長期的影響により水生生物に毒性

注意書き

【安全対策】

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。 - 禁煙。
容器を密閉しておくこと。
容器を接地すること、アースをとること。
防爆型の電気機器、換気装置、照明機器などを使用すること。
火花を発生させない工具を使用すること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
ミスト、蒸気などを吸入しないこと。
取扱い後は、よく手を洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面、呼吸用保護具を着用すること。
環境への放出を避けること。

【応急措置】

飲み込んだ場合：口をすすぐこと。直ちに医師に連絡すること。
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
直ちに医師に連絡すること。
皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。
皮膚を流水、シャワーで洗うこと。
眼に入った場合：水で30分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
気分が悪い時は医師に連絡すること。
皮膚刺激が生じた場合：医師の診断、手当てを受けること。
眼の刺激が続く場合：医師の診断、手当てを受けること。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
漏出物を回収すること。

【保管】

湿気、日光を避け、容器を密閉し換気の良い冷暗所(2~10)に施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「分類対象外」、「分類できない」又は「区分外」である。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区分	:	単一製品
化学名	:	1,1-ジメチルヒドラジン (別名) N,N-ジメチルヒドラジン、unsym-ジメチルヒドラジン、非対称ジメチルヒドラジン、ジマジン、ディマジン (英名) 1,1-Dimethylhydrazine、asym-Dimethylhydrazine、unsym-Dimethylhydrazine、Dimazine、asymmetric Dimethylhydrazine、N,N-dimethylhydrazine (EC名称)、Hydrazine, 1,1-dimethyl- (TSCA名称)
成分及び含有量	:	1,1-ジメチルヒドラジン、97.0%以上
化学式および構造式	:	(CH ₃) ₂ NNH ₂ 、C ₂ H ₈ N ₂ 、構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量	:	60.10
官報公示整理番号(化審法)	:	(2)-200
	(安衛法)	: 公表化学物質(化審法番号を準用)
CAS No.	:	57-14-7
EC No.	:	200-316-0
危険有害成分	:	1,1-ジメチルヒドラジン ・労働安全衛生法 通知対象物 政令番号 15 表示対象物 政令番号 14の10 特化則 特定化学物質等 第二類物質 作業環境測定基準、作業環境評価基準 変異原性が認められた既存化学物質 危険物・引火性の物 ・毒物劇物取締法 毒物「1,1-ジメチルヒドラジン」 ・化学物質排出把握管理促進法(PRTR法) 1-226 (97%) ・消防法 危険物第5類 ヒドラジンの誘導体 第2種自己反応性物質

4. 応急措置

吸入した場合 : 直ちに医師に連絡する。
直ちに、被災者を新鮮な空気のある場所に移す。
被災者を毛布等でおおって体を保温し、呼吸しやすい姿勢で安静にする。
呼吸していて嘔吐がある時は、頭を横向きにする。
呼吸が止まっている場合、または呼吸が弱い場合には衣服を緩め、呼吸気道を確保した上で人工呼吸(または酸素吸入)を行なう。

- 皮膚に付着した場合 : 気分が悪い時は、医師の手当てを受ける。
直ちに、汚染された衣類、靴などを脱ぐ。
速やかに、皮膚を多量の水と石鹸で洗う。
皮膚刺激などが生じた時は医師の手当てを受ける。
汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
- 目に入った場合 : 直ちに、水で15分以上注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用
して固着していなければ除去し、洗浄を続ける。
まぶたを親指と人さし指で掘り眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの
隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。
眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。
- 飲み込んだ場合 : 直ちに医師に連絡する。
口をすすぎ、うがいをする。無理に吐かせない。
強制的に吐かせると、本製品が揮発性のために嘔吐物の一部が肺に入り
高熱が出て出血性肺炎を引き起こす危険性がある。
水に活性炭を懸濁した液を飲ませる。
意識がない時は何も与えない。
嘔吐が自然に生じた時は、気管への吸入が起きないように身体を傾斜させる。
速やかに、医師の診断、治療を受ける。
医師の診断、治療を受ける。
- 予想される急性症状及び遅発性症状 :
吸入 : 咳、咽頭痛、灼熱感、吐き気、頭痛、嘔吐、息苦しさ、
痙攣
皮膚に付着 : 皮膚から吸収される可能性あり。
発赤、痛み。
他の症状については「吸入」参照。
眼に付着 : 発赤、痛み
経口摂取 : 咽頭痛。他の症状については「吸入」参

5. 火災時の処置

- 消火剤 : 本製品は可燃性、引火性であり、燃焼しやすい。
水噴霧、二酸化炭素、泡消火剤、粉末
- 使ってはならない消火剤 : 大火災の場合、空気を遮断できる泡消火剤が有効である。
特有の危険有害性 : 棒状放水（本品があふれ出し、火災を拡大するおそれがあるため）
引火性が高い。
極めて燃え易いので、熱、火花、火炎で容易に発火する。
引火点(-15℃)以上では蒸気/空気の爆発性混合気体を生じることがある。
本品の蒸気は空気より重く、地面あるいは床に沿って移動することが
ある。遠距離引火の可能性もある。
加熱により容器が爆発するおそれがある。
火災によって刺激性又は毒性のガスを発生するおそれがある。
- 特有の消火方法 : 火元への燃焼源を遮断する。
火災周辺の設備、可燃物に散水し、火災延焼を防ぐ。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
- 消火を行う者の保護 : 消火作業の際は風上から行い、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。
漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。
風上から作業し、ミスト、蒸気、ガスなどを吸入しない。
蒸気が多量に発生する場合は、水噴霧し蒸気発生を抑える。
密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
- 環境に対する注意事項 : 河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。
回収、中和 : 乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、密閉できる空容器に回収する。後で
廃棄処理する。
大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、液面を泡で覆い密閉できる容器
などに回収する。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材 : 危険でなければ漏れを止める。
漏洩エリア内で稼働させる設備・機器類は接地する。
- 二次災害の防止策 : 事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。
周辺の発火源を速やかに取除く。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱いおよび保管上の注意

- 取扱い
技術的対策 : 裸火禁止、火花禁止、禁煙。
強力な酸化剤との接触禁止。
引火点の-15℃以上では、密閉系、換気、および防爆型電気設備が必要。

	ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。 身体とのあらゆる接触を避ける。 指定数量以上の量を取扱う場合、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行なう。 指定数量以上の危険物を貯蔵し、取り扱う場合は消防法に基づく許可が必要で、危険物貯蔵所に保管する。 指定数量の1/5以上、1未満（少量危険物）の場合も、少量危険物貯蔵所に保管し、法の規制を受け、最寄の消防署に届出を行う必要がある。 指定数量の1/5未満の危険物の貯蔵・取り扱いについては届出の必要はない。
局所排気・全体換気 安全取扱い注意事項	： 炎、火花または高温体との接触を避ける。 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。 換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。 ： すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗う。
接触回避 保管 技術的対策	： 炎、火花または高温体との接触を避ける。
保管条件	： 保管場所は壁、柱、床等を耐火構造とする。 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けない。 保管場所の床は、危険物が浸透しない構造するとともに、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設ける。 保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。 日光や高温を避ける。 容器を密閉して換気の良い冷暗所（2～10℃）に保管する。 不活性ガス（窒素ガス）を封入する。 一定の場所を定めて、施錠して保管する。 貯蔵する所には、「火気厳禁」の表示を行う。 貯蔵する所には、赤地に白文字で「医薬用外毒物」の表示を行う。 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
混触危険物質 容器包装材料	： 強酸化剤（硝酸塩、塩素酸塩、過酸化物、過塩素酸塩など）、酸 ： ガラスなど

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	： 設定されていない。
許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）	： 日本産衛学会（2016年版） 設定されていない。 ACGIH（2016年版） TLV-TWA 0.01ppm（皮膚）
設備対策	： この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。 ミスト、蒸気が発生する場合、換気装置を設置する。 引火点の-15℃以上では、密閉系、換気および防爆型電気設備を使用する。 帯電を防ぐ（例えばアースを使用）。
保護具	： 呼吸器保護具（有機ガス用防毒マスク）を着用する。 手の保護具 保護手袋（テフロン製、ネオプレン製など）を着用する。 眼の保護具 保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を着用する。
皮膚及び身体の保護具	： 長袖作業衣を着用する。 必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
衛生対策	： この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。 保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など	： 無色澄明液体。発煙性で吸湿性の液体。
臭い	： 刺激臭（アンモニアのような臭気）
pH	： 強塩基（水溶液）
融点	： -58
沸点	： 63
引火点	： -15（密閉式）
爆発範囲	： 下限 2.4 vol% 上限 20.0 vol%
蒸気圧	： 16.4 kPa（20℃） 20.9 kPa（25℃）
蒸気密度（空気 = 1）	： 2.1
20℃での蒸気/空気混合気体の相対密度（空気 = 1）	： 1.2
比重	： 0.792（20/4℃）

溶解性	: 水に溶けやすい(混和しやすい)。 エタノール及びジエチルエーテル、多くの有機溶剤に溶ける。
オクタノール/水分分配係数	: log Pow = -0.4
自然発火温度	: 249
分解温度	: データなし
粘度	: 0.6 mm ² /s(25)
GHS分類	
引火性液体	: 本品の引火点 - 15 [密閉式] (ICSC(2008)) は < 23 であり、かつ、初留点63 (ICSC(2008)) は > 35 であることから、区分2とした。
爆発物	: 本品はヒドラジン類であり、爆発性に関わる原子団(隣接した窒素原子)を含むが、UNRTDG(UN1163)はクラス6.1、副次危険3、8 PGIであり上位の爆発物には該当しないと判断し、区分外とした。
自己反応性化学品	: 本品はヒドラジン類であり、爆発性に関わる原子団(隣接した窒素原子)を含むが、UNRTDG(UN1163)はクラス6.1、副次危険3、8 PGIであり上位の自己反応性には該当しないと判断し、区分外とした。
自然発火性液体	: 本品の発火点が249 (ICSC(2008))であり、常温では発火しないと考えられるため、区分外とした。

10. 安定性及び反応性

安定性	: 通常の取扱条件において安定である。 空気に暴露すると、徐々に黄色になる。
危険有害反応可能性	: 容器の中に不活性ガス(窒素ガス)を注入すると安定である。 本品は強還元剤であり、強酸化剤と混触すると激しく反応し、火災や爆発を生じることがある。 熱や火災や酸化剤にさらされると危険。 本品は強塩基であり、酸と激しく反応し、腐食性を示す。 本品の蒸気は空気より重く、地面あるいは床に沿って移動することがある。遠距離引火の可能性はある。 -15 以上では、蒸気、空気の爆発性混合気体を生じることがある。 酸素と反応し火災や爆発の危険をもたらす。 ある種のプラスチックを侵す。
避けるべき条件	: 熱、日光、裸火、静電気、スパーク
混触危険物質	: 強酸化剤(硝酸塩、塩素酸塩、過酸化物、過塩素酸塩など)、 酸類
危険有害な分解生成物	: 窒素酸化物、一酸化炭素、二酸化炭素

11. 有害性情報

急性毒性	: 経口 ラット LD50=122mg/kg、250mg/kg、360mg/kg(Patty (4th, 2000)) から計算式を適用して得られた 131mg/kg に基づき、区分3とした。 飲み込むと有害(経口)(区分3) 経皮 ウサギを用いた経皮投与試験のLD50= 1060mg/kg(Patty (4th, 2000)) に基づき、区分4とした。 皮膚に接触すると有害(経皮)(区分4) 吸入(蒸気)ラット LC50(4時間)=252ppm(0.66mg/Lに相当)、 LC50(1時間)= 1411ppm(3.67mg/Lに相当し、4時間換算すると LC50(4時間)= 708ppm(1.84mg/Lに相当)(Patty (4th,2000)) のうち、小さい値である 252ppm は、飽和蒸気圧 156.8torr (25)における飽和蒸気圧濃度 207000ppm の90% よりも 低い値であるため、「ミストがほとんど混在しない蒸気」として ガスの基準値で分類し、区分2とした。 吸入すると生命に危険(蒸気)(区分2) 吸入(ミスト)データがないため分類できない。
皮膚腐食性・刺激性	: ヒトへの影響として、眼、皮膚及び気道を刺激する。眼に入った り、皮膚に付くと発赤、痛みを生じるとの報告(環境省リスク評価 第8巻(2010))、ウサギとモルモットを用いた皮膚刺激性試験で 少量適用するとわずかに紅斑がみられる(PATTY (5th, 2001)) ことから、区分2とした。 なお、EUリスク警句でR34とされている(EC-JRC(ESIS)(Access on Dec. 2010))。 皮膚刺激(区分2)
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	: ヒトへの影響として、眼、皮膚及び気道を刺激する。眼に入った り皮膚に付くと発赤、痛みを生じるとの報告(環境省リスク評価 第8巻(2010))、ウサギを用いた眼刺激性試験で、軽度の結膜炎 やわずかな紅斑がみられ、それらは5日以内に消失した(PATTY (5th, 2001))。げっ歯類を用いた眼刺激性試験の結果の記述に 「永続性の眼の損傷はみられなかったとの記載(PATTY (5th, 2001))」に基づき、区分2 Aとした。 強い眼刺激(区分2A)

呼吸器感作性	:	情報がなため分類できない。
皮膚感作性	:	情報がなため分類できない。
生殖細胞変異原性	:	マウス肝臓を用いた小核試験ならびにマウス脾臓を用いた小核試験(体細胞in vivo変異原性試験)の陽性(NITE初期リスク評価書(2008)、IARC 71(1999))報告に基づき、区分2とした。なお、マウス精子を用いた小核試験(同時に実施された骨髄小核試験は陰性で整合性がとれていない)、マウス肺を用いたDNA鎖損傷、切断試験及びラット肝臓を用いたDNA結合試験(体細胞in vivo遺伝毒性試験)で陽性、in vitro試験のエームステスト(NITE初期リスク評価書(2008))、チャイニーズハムスターCHL細胞及びCHO細胞を用いた染色体異常試験(NITE初期リスク評価書Ver.1.0, No.217(2008)、IARC 71(1999))、マウスリンパ腫L5178Y細胞及びチャイニーズハムスターV79細胞を用いた遺伝子突然変異試験(NITE初期リスク評価書(2008)、IARC 71(1999))で陽性と報告されている。遺伝性疾患のおそれの疑い(区分2)
発がん性	:	NTPでR(合理的にヒト発がん性があることが懸念される物質)(NTP(2005))、ACGIHでA3(動物実験では発がん性が確認されたが、ヒトの発がん性との関連が未知の物質)(ACGIH(2001))、IARCで2B(ヒトに対して発がん性があるかもしれない)(IARC 71(1999))に分類されていることから、区分2とした。
生殖毒性	:	発がんのおそれの疑い(区分2) 妊娠ラットの器官形成期に腹腔内投与した発生毒性試験において最高用量(60 mg/kg/日)で母動物の体重増加抑制、胎児体重減少と吸収胚増加が見られたが催奇形性はなかった(NITE初期リスク評価書(2008))と報告されている。また、雄マウスに腹腔内投与後の精子の形態に及ぼす影響について、異常が増加したとの報告の一方、異常が見られなかったとする報告もあり、相反する結果となっている(NITE初期リスク評価書(2008))。 生殖・発生毒性に関して、その他には直接本物質ばく露によるデータはなく、母動物が体重増加抑制を示した高用量でのみ吸収胚増加が認められたが、腹腔内投与のデータであることから分類できないとした。
特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露)	:	ヒトへの影響として、濃度不明であるが吸入暴露により呼吸器に対する作用、吐き気、嘔吐、神経学的影響、肺水腫が認められ(PATTY(5th, 2001))、大量の経皮暴露により昏睡し中枢神経系への影響がある(ASTDR(1997))と報告されている。これに基づき、区分1(神経系、呼吸器)とした。 なお、動物に対する急性暴露による主な症状は嘔吐、痙攣などの神経系への影響であり、肉眼的病理検査では過血糖症や痙攣の二次的な影響と考えられる肺の浮腫や出血が認められた(NITE初期リスク評価書 Ver.1.0, No.217(2008))と報告されている。神経系、呼吸器の障害(区分1)
特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露)	:	本物質のばく露を受けた労働者の調査例で、血清ALT活性の上昇、肝臓の脂肪変性等の肝臓への影響が報告され(環境省リスク評価第8巻(平成22年))、また、ロケット液体燃料充填作業中にばく露を受けた従業員に肝臓への影響が認められ、46名に血清ALT上昇、この中の26名の肝臓生検により6名に脂肪変性が認められたと(NITE初期リスク評価書(2008))報告されているなど、ヒトでの複数の事例報告に基づき、区分1(肝臓)とした。 一方、ラット、マウスおよびイヌに反復吸入ばく露した験において、マウスまたはラットでは75 ppm(蒸気)を6~7週間ばく露(90日換算値:約0.09 mg/L)により、振戦、嗜眠、呼吸困難の症状、イヌに25 ppm(蒸気)を13週間のばく露(90日換算値:約0.06 mg/L)で肺胞出血、肺気腫の症状がそれぞれみられ(環境省リスク評価第8巻(平成22年))、用量はガイダンス値区分1に相当することから、区分1(神経系、呼吸器系)とした。 さらに、イヌに5 ppmを26週間のばく露で軽度の貧血、脾臓のヘモジデリン沈着の所見(環境省リスク評価第8巻(平成22年))があり、ヒトで長期または反復ばく露すると、血液に影響を与え貧血を起こすことがあるとの記載(環境省リスク評価第8巻(平成22年))により、区分1(血液)とした。 以上より、分類は区分1(肝臓、血液系、神経系、呼吸器系)とした。 長期又は反復ばく露による肝臓、血液系、神経系、呼吸器系の障害(区分1)
吸引性呼吸器有害性	:	データがないため分類できない。

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性 : 魚類(ファットヘッドミノー)の96時間LC50 = 7.85mg/L (AQUIRE,

水生環境慢性有害性	2003) から、区分2とした。 水生生物に毒性(区分2) : 急性毒性が区分2、生物蓄積性が低いと推定されるもの (log Kow = -0.4 (既存化学物質安全性点検データ)、急速分解性 がない(BODによる分解度: 0% (既存化学物質安全性点検データ)) ことから、区分2とした。
オゾン層への有害性	長期的影響により水生生物に毒性(区分2) : 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていない ため、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	: 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。 都道府県知事などの許可(収集運搬業許可、処分業許可)を受けた 産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票(マニフェスト)を交付 して廃棄物処理を委託する。 廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知 の上処理を委託する。 必要に応じて、廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の 処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。 本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま 埋め立てたり投棄することは避ける。 (参考) 燃焼法 可燃性溶剤に混合し、アフターバーナー及びスクラバー付き焼却炉の 火室へ噴霧し、焼却する。
汚染容器及び包装	: 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って 適切に処分する。 空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者 に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

緊急時応急処置指針番号 : 131

国際規制

海上規制情報 (IMDGコード/IMOの規定に従う)

UN No. : 1163
Proper Shipping Name : DIMETHYLHYDRAZINE, UNSYMMETRICAL
Class : 6.1 (毒物)
Sub Risk : 3 (引火性液体)、8 (腐食性物質)
Packing Group : I
Marine Pollutant : Yes (該当)
Limited Quantity : -

航空規制情報 (ICAO-TI/IATA-DGRの規定に従う)

: Forbidden (積載禁止)

国内規制

陸上規制情報 (消防法、毒劇法、道路法の規定に従う)

海上規制情報 (船舶安全法/危険物船舶輸送及び貯蔵規則/船舶による危険物の運送基準等
を定める告示に従う)

国連番号 : 1163
品名 : ジメチルヒドラジン(非対称型のもの) [1,1-ジメチルヒドラジン]
クラス : 6.1
副次危険 : 3、8
容器等級 : I
海洋汚染物質 : 該当
少量危険物許容量 : -

航空規制情報 (航空法/航空法施行規則/航空機による爆発物等の輸送基準を定める告示に
従う) : 積載禁止

特別の安全対策

: 危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を
収納した運搬容器が落下し、転倒しもしくは破損しないように
積載すること。
危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさ
ないように運搬すること。
危険物の運搬中危険物が著しく漏れる等災害が発生するおそれ
がある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、
もよりの消防機関その他の関係機関に通報すること。
輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのな
いように積み込み、荷崩れの防止を確実に
行う。
重量物を上積みしない。
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
必要に応じ移送時にイエローカードを運搬人に保持させる。

15. 適用法令

労働安全衛生法	: 名称等を通ずべき危険物及び有害物 (政令番号 第295号「ジメチルヒドラーヂン」、 対象重量%は 0.1) 名称等を表示すべき危険物及び有害物 (政令番号 第295号「ジメチルヒドラーヂン」、 対象重量%は 0.1) (別表第9) 特化則 特定化学物質等 第二類物質 作業環境測定基準、作業環境評価基準 変異原性が認められた既存化学物質 (労働省通達 基発第452号の2 '96.7.5) 危険物・引火性の物(施行令別表第1第4号)
化審法	: 旧第二種監視化学物質 No.383 (官報公示日:2000/09/22) 旧第三種監視化学物質 No.169 (官報公示日:2010/03/19)
消防法	: 危険物 第5類 ヒドラーヂンの誘導体 (第2種自己反応性物質)、 指定数量100kg、危険等級
毒物及び劇物取締法	: 毒物「1,1-ジメチルヒドラーヂン」、包装等級
道路法	: 車両の水底トンネルの通行禁止「毒物」(施行令第19条の12)
化学物質管理促進法(PRTR法)	: ・種別 「第1種指定化学物質」 ・政令番号 「1-226」 ・政令名称 「1,1-ジメチルヒドラーヂン」
船舶安全法	: 毒物類・毒物
航空法	: 輸送禁止(毒物類・毒物)
大気汚染防止法	: 有害大気汚染物質(中環審第9次答申の103) 「1,1-ジメチルヒドラーヂン」
海洋汚染防止法	: 海洋汚染物質(P物質)
水質汚濁防止法	: 生活環境項目(施行令第三条第一項) 「水素イオン濃度」 〔排水基準〕・海域以外の公共用水域に排出されるもの 5.8以上8.6以下 ・海域に排出されるもの5.0以上9.0以下 「生物化学的酸素要求量及び化学的酸素要求量」 「窒素の含有量」
輸出貿易管理令	: 輸出許可品目(別表第1-4-6) 「ミサイルの推進薬又はその原料となる物質:ヒドラーヂンの 誘導体(非対称ジメチルヒドラーヂン)」 キャッチオール規制(別表第1、16項) 第29類 有機化学用品 HSコード(輸出統計品目番号、2017年4月1日版):2928.00-000 「ヒドラーヂン又はヒドロキシルアミンの有機誘導体」
厚生労働省平成20年リスク評価対象物質:	高いリスクが認められたさらに詳細なリスク評価が必要な物質 「基安発0201第6号(平成22年2月1日)」

16. その他の情報

(注)本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

取扱注意事項:

本製品の取扱いは毒物劇物取締法の規定に従い、購入、保管、使用及び廃棄には細心の注意を払うこと。毒物劇物取扱等の責任者は、必要に応じ取扱う者に対し労働安全衛生、漏洩防止、緊急時の対応、環境影響、使用記録、保管庫施設、紛失盗難防止などについて教育、訓練を実施し、事故の予防に努めること。

参考文献:

化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances	NIOSH CD-ROM
GHS分類結果データベース	nite(独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2012に準じ作成しています。